

「竜宮城・香炉」 全体の形状のイメージは海の王国、竜宮城。色とりどり、さまざまな魚が取り囲み訪れるさまを表現しました。素地が生乾きのあいだに下絵を描き、乾燥しきる前に彫り上げた。内部の香立ては海亀をかたちづいています。

「猫の舞い・大皿」 中央の踊る猫たちは、江戸時代に描かれた絵を写したものの。その周囲には「踊りたくなる猫の気持ち」を想像して、愛らしい猫の姿態を模様に表示しました。

「宝づくし・蓋物・置物」 猫、うさぎ、桃など、いずれも丸みのある形状で、全体に宝づくしの図案を散らし、縁起のいい小品にしました。伝統的な図案ですが、描き線を白色にしやわらかな感じにしました。

柴田 遊

2000年宇治市炭山の犬塚陶房に従事。2002年京都府立陶工高等技術専門学校図案科卒業。京都市東山区の高野昭阿弥勤務を経て、2006年、炭山の犬塚陶房に再び従事する。2011年「京もの認定工芸士」認定。2014年「伝統工芸士」(京焼・清水焼加飾部門)認定。

〒601-1395
宇治市炭山久田21-1
犬塚陶房
TEL.0774-32-2064 FAX.0774-32-5794



目にすれば心躍る

華やかで温かなものづくり

イチチン(泥漿や釉薬で線文様を盛り上げて描く装飾技法)や呉須(藍色の顔料)、鉄による下絵付、また金や銀などをを用いる上絵付で線描きをし、下絵具で彩色を施します。華やかでいて温かみを感じられ、品物を目にした方の気持ちにパツと楽しくなるようなものづくりを目指しています。愛着をもって大切にしてくださることを願い、一つひとつ丁寧な心を込めてつくっています。

◆京もの認定工芸士とは…

京都の伝統工芸品(京もの)の製造に従事し、特に優れた技術をもった意欲ある若手職人に京都府知事から授与される称号。



京もの認定工芸士 第57号

しばた
柴田 遊
ゆう